

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671400236		
法人名	有限会社 おりの		
事業所名	グループホーム ほかほか		
所在地	徳島県海部郡海陽町久保字板取12-1		
自己評価作成日	平成30年 12月24日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成31年 2月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは、徳島県の最南端の海陽町穴喰地区にあり、自然に囲まれた中で、ゆっくりと過ごして頂ける環境が整っております。職員は16名おりそのうち、介護福祉士が9名おり、日々の生活を支援しております。医療面は、協力医療機関との連携を図っており、Drの往診、看護師が4名配置されており、急変時の場合も郡内の総合病院とも連携図っており、Drの指示にて受診、入院が行える体制が整っております。ご家族の希望があれば看取り支援も行っており、ほかほかの理念である「温もりと安らぎのあるアットホームな生活を支援します」を念頭に、住み慣れた地域で最期まで、快適で、入居者様のペースで生活が送れるよう、職員一丸で介護に取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の前には公園が広がり、幼稚園児が散歩にきたり、家族連れが花見をしたりなど、地域住民が集う環境である。母体医療機関との連携が整っており、サービス事業所と高齢者複合施設が併設され、地域にとってなくてはならない施設となっている。法人全体で行う秋祭りは、地域住民や婦人会、ボランティアの協力を得て、利用者や家族が地域住民と交流する機会となっている。医療面でも、看護師や協力医療機関と職員との連携を図っている。重度化や終末期ケアにも積極的に取り組んでいる。職員は、利用者の声に耳を傾けるよう努めており、住み慣れた地域で最期まで生活できるよう支援することで、利用者や家族の安心にも繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ぼかぼかAユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ぼかぼか開所時に掲げた理念「温もりと安らぎのあるアットホームな生活を支援します」は高齢者複合施設全体の理念にもなっており、毎朝申し送り時に、職員で唱和し共有して、支援に取り組んでおります。	事業所では、毎朝の申し送り時に全職員で理念を唱和し、共有化を図っている。職員は、利用者一人ひとりにあわせて見守りや関わりを持つように努め、住み慣れた地域で生活できるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	秋祭りに阿波踊り連や、海部高生等に参加して頂いたり、歌や踊りを披露して下さるボランティアの方や保育園児達、地域医療研修の医学部生の方々が訪問して下さり、入居者さんと交流を図っております。	事業所には、日頃から保育園児や医学生等ボランティアの慰問があり、利用者との交流の機会となっている。施設全体で行う秋祭りは、地域住民やボランティア、高校生、老人会、婦人会などの協力により開催している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居希望等の相談など、ご家族や、地域包括支援センターや、居宅介護支援事業からの問い合わせに、これまで培ってきた認知症状の対応、今後の支援方法等、の相談を行い住み慣れた環境で生活が維持できるよう支援しております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設行事と合わせて、行わせて頂き、概ね年6回開催し、町、社協、協力医療機関、ご家族の方々に参加して頂き、施設行事の様子や、現状等の報告を行い、参加者の方々に意見を頂き、施設運営に反映しております。	事業所では、年6回、運営推進会議を施設行事にあわせて開催している。利用者や家族、町、社会福祉協議会、協力医療機関など、多くの参加を得ている。現状の報告や行事の様子について意見交換を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町担当の方には、推進会議や秋祭り等に参加して頂き、密に連携を図っており、町への提出物は郵送せず、直接窓口へ届け、分からないことなどあれば、相談等も行っております。	職員は、報告書類を町の窓口に持参した際に、取り組みについても積極的に伝え、協力関係を築いている。また、施設行事にも参加してもらうことで、関係者と連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては、朝礼時に関わる事項がある場合は、職員同士で話し合い、拘束なく安全に生活が送れるかを考え、環境を整えたり、色々な工夫をして、快適に生活が送れるよう支援しております。	事業所では、身体拘束についての研修や勉強会で、身体拘束の内容や弊害について理解と共有化を図り、職員同士で確認するよう努めている。夜間のみ玄関の施錠を行い、利用者の帰宅願望に対しても、全職員で寄りそったケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議や、朝礼時に、日々の処遇について考える機会を設けており、年1回は研修も行き、虐待がないよう努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ぼかぼかAユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在GHIには日常生活自立支援事業、成年後見人の入居者さんはおられませんが、以前併設するサ高住に入居者さんがおられ、司法書士の先生から指導を受けておりました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に管理者が、詳細に説明しており、介護保険、介護報酬改定時には、ご家族に文書で送付したり、直接訪問し、説明を行っております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者さん家族さんから、要望があれば、朝礼時に職員同士で話し合い、可能な事であれば出来る限り反映し、現状で難しい時は、職員、又管理者が、入居者さん、家族さんに説明を行っております。	職員は、ティータイム等に利用者や話す時間を作ったり、玄関に意見箱を設置したりして、意見や要望の把握に努めている。家族の意見や要望は、来訪時や電話などで聞くようにしている。出された意見や要望について全職員で話しあい、サービスの質の向上に取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼時に管理者、各リーダーが出席し、要望や改善点等意見がある場合は、できる限り反映できるよう心がけております。	管理者やリーダーは、朝礼時や日頃の取り組みの中で、意見や要望、提案を聞くようにしている。出された意見等はできる限り反映し、働く意欲の向上に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務時間を越えるようであれば、業務を改善し、時間内で業務が終わるよう対応し、管理者は職員に現状の聞き取りを行い、働きやすい環境を整えられるよう対応しております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部での研修に、できる限り参加が行って頂き、外で学んだ事を、内部研修として発表が行って頂き、職員全体でスキルアップが行えるよう、対応し、年何回は、協力医療機関のPT等の研修も行い、多種の研修も行っております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者研修等で、他の施設の方と情報交換等を行ったり、他県、他市町村の事業所と訪問し合い意見交換、ネットワークが構築できるよう取り組んでおります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ぼかぼかAユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に訪問したり、また施設に来て頂き、入居者さん、不安に思われていること、分からないことなど話を聞いて、安心して入居が行えるよう、関係づくりに取り組んでおります。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に要望等聞き、できる限り答えられるよう対応し、出来ない場合は、現状の施設の状況を説明し、入居要望にあった事業所の紹介等を行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人さん、家族さん、又ケマネを含め話し合い、現状を見極めて、現状で必要な介護サービスが提供できるよう支援しております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者さんと近い関係を、保ちながら、人生の先輩であるという意識を大切にしながら、共に生活が送れるよう、支援しております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居料の支払いは、窓口となっており、月1回は家族さんが来られ、現状の報告や、足りない物があれば、居室担当者が、電話連絡し、購入等の連絡を行い、共に支え合いながら、入居者さんの生活を支援しております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から行っている。美容室やお店などの利用が、出来る限り行えるよう支援しております。又隣接するサ高住やデイに知人等おられる方もおり、交流が図れるよう支援しております。	事業所は、隣接する施設利用者との面会を支援している。家族の協力によって、馴染みの美容院を利用したり、知人宅へ外出したりできるよう、支援している。利用者一人ひとりの身体状況に配慮しつつ、これまでの関係が継続できるよう取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は本人のペースを大切にしながらも、リビングにて過ごして頂き、体操や塗り絵等、他の入居者さんと一緒に壁画作り等も行い、一緒になって作品を作成し、交流を図っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ぼかぼかAユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された場合は、週に何回は病院へ様子を見に行き、病院、家族さんと密に連携を図り、現状把握を行い、他施設等へ移られた方に関しても、何度か訪問し、安定した生活を送られているか把握を行っております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能範囲で希望、意向が反映できるよう対応し、朝礼時に話し合い、医療面に関わってくる場合は協力医療機関看護師、Drに相談し、希望、意向が少しでも叶えられるよう支援しております。	職員は、日頃の利用者一人ひとりとの関わりのなかで、思いや希望、意向を把握するよう努めている。外出困難な利用者が希望するDVDを観ることができるよう、出された意見を本人本位に検討し、実現に向けて工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人さん、家族さんに用紙に記入して頂いたり、聞き取り等で、情報を収集しております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態を把握し、朝礼時に変わった事があれば、職員で話し合い、自立に向けた支援が行えるよう、環境を整えたり、色々な工夫して、ADL面、向上が図れるよう支援しております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	朝礼時にカンファレンスを行い、現状で必要な支援を職員で話し合い、家族さんの参加は難しいですが、面会時や支払い時に、意見を頂きプランに反映を行っております。	事業所では、利用者との関わりの中で気づいた事を全職員で話しあい、介護計画に反映させている。本人や家族への意見・要望の聞き取りは、面会時や電話連絡で行い、心体状況にあわせた計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	少し変わった行動や、言動等の変化があれば記録し、朝礼時に話し合い、対応策の検討と、介護計画の変更にも活かしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者さんの意向があれば、出来る限り対応できるよう、朝礼時に話し合い、可能であれば、管理者に確認して、支援が行えるよう対応しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ぼかぼかAユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者さんの散髪等地域の美容室に訪問して頂いております。また希望があれば、隣接するサ高住へ移動スーパーが来ており、利用も可能であります。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近くにある、医院と密に連携を図っており、月～土はDrが往診にいられており、体調不良により、入院が必要な場合は、家族さんに連絡説明を行い、Drより、紹介状を書いて頂き、スムーズに総合病院での診察が行える体制が整っております。	事業所では、同一法人の運営する医療機関がかかりつけ医となっており、定期的に往診や体調管理を行っている。また、家族の協力を得て、専門医の受診や希望する医療機関への受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師が配置されており、日々の健康管理、Dr指示等がスムーズに行え、夜間の連絡体制も整えており、いつでも相談、指示を受けれる状態であります。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は週に何回かは、様子を見に行き、病院の看護師さんから状態の報告もらい、施設看護師、また協力医療機関Drとの情報の共有を行い、退院時に向けての話し合いを行っております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明を行い、実際重度化になった場合は、家族の意向を聞き、看取りの希望があれば、協力医療と密に連携を図り、対応についても、職員に周知し、家族さん、協力医療機関、職員で市終末期に向けた支援に取り組んでおります。	事業所では、入居時に本人や家族に対して、重度化や終末期における対応について説明している。その際意向を確認し、同意を得ている。緊急時には、主治医や医療機関、看護師との連携体制ができています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は看護師、協力医療機関Dr、管理者にすぐに連絡が取れる体制を整えており、朝礼時等に看護師からも、急変時の対応の説明も、その都度行われております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災避難訓練を行い、そのうち1回は津波避難も兼ねて行なっております。南海地震に関しては、研修を行い、職員での避難に関しての共通理解し、スムーズに非難誘導が行えるよう努めております。	事業所では、年2回、火災や津波を想定した避難訓練を実施している。また、年1回は併設事業所と合同で総合訓練も行われている。事業所は町からの指定を受け福祉避難所にもなっており、地域との協力体制も築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ぼかぼかAユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者さんのプライバシーを損なわないよう、職員同士で話し合い、入浴時や排泄時等注意し、介助を行っています。声かけについても、気になった所があれば、朝礼時等に管理者から注意、指導し、研修も行ってあります。	職員は、法人全体の研修や勉強会でプライバシーに関して理解を深めている。日頃の支援の中でも利用者一人ひとりの人格や尊厳を尊重するよう、全職員で話しあい、プライバシーに配慮した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思伝達が難しい場合は、うなづきや、表情等からくみ取り、入居者さんの思いを感じ、実現できるよう、密にコミュニケーションを図っており。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者さん一人ひとりのペースに合わせて、ゆっくり過ごして頂ける環境を整え、快適に生活が送れるよう支援しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人にあつた、みだしなみ、おしゃれが行えるよう起床時とう、介助が必要な方は、整容、服装を整えております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一括して厨房で作っておりますが、刻み、ミキサー等の調理は行い、入居者に合った食事形態で、食べやすいように提供しています。月に何回は簡単なおやつを、手作りで提供しております。	調理は同一法人の厨房で行われている。利用者一人ひとりの状態にあわせて刻み食やミキサー食等、少しでも多く口から食べてもらえる工夫をしている。馴染みの食器や使い慣れた箸を使用し、食事を楽しみながら自力で食べられるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医からの健康面での指示で、制限がある方がおられ、看護師を中心に栄養面での管理を行い、変更がある場合は申し送り時に、話し合い職員間で共有し、栄養面の維持が図れるよう、支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、清潔に保てるよう支援し、問題がある場合は看護師等に相談し、協力している歯科医の訪問診察も受けられる体制を整えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ぼかぼかAユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限り、トイレでの排泄が維持できるよう、支援しており、日中はトイレ介助を行い、自立排泄が行える環境体勢を整えています。	職員は、一人ひとりの排泄パターンを把握し、適切な声掛けや誘導を支援している。日中は、トイレでの排泄支援に取り組んでいる。夜間は、ポータブルトイレを使用することもあるが、睡眠を妨げないようにパット交換で対応する場合もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便が3日以上出ていない人は、看護師に報告し、浣腸等を行って頂いている。なるべく水分を取って頂き、適度な運動で、スムーズに排便が行えるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一般浴での入浴可能な方が減ってきており、特浴での入浴の方は、週2回で、一般浴の方が週3回程度で入浴が行えるよう対応し、入る時間帯は午後からで、本人の入るタイミングで、入浴が行えるよう支援しております。	事業所では、利用者の希望に応じた入浴支援を行っている。個浴が困難な場合は併設施設の特浴を利用し、清潔さを保てるように努めている。ゆず湯や入浴剤も活用し、入浴を楽しむことができるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の状態や、体調面などをみながら、職員同士で話し合い、居室やソファなどで日中休める環境を整えられるよう支援しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師は4名配置されており、服薬等に関しては、常に指示を仰げる体制が整っており、新しい薬が処方された場合も、申し送り時に、看護師から職員へ周知を行い、確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者さんの嗜好や趣味等、入居前に記入して頂き、その情報を活かし、入居後も本人さんの意欲が引き出せるよう、趣味等を活かせる環境を整えております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ボランティアを通じての、外出支援は起こっておりませんが、外出可能な方は、ご家族と一緒に、外出、外泊をされております。天候がいい日は前の公園へ散歩に出かけたり、ドライブを行い、外に出る機会も、作っております。	事業所では、天気がいい日には近くの公園や池の周りへ散歩に出かけている。家族と一緒に帰宅したり、外食や買い物に出かけたり、季節に応じて花見やドライブに出かけたりしている。外出困難者には、施設中庭で日光浴やお茶を飲むなど、気分転換を図れるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ぼかぼかAユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の大半が、施設の立替払いにて対応しており、購入した際は、全てレシートで何を購入し、使用したか、家族さんへ説明が行えるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持たれている方もおられますが、ほぼ職員が家族さんと連絡を取っております。入居者さんの様子は、月1回アルバムを作成したり、ブログ等で、見れるよう努めております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適的に過ごして頂けるよう、毎日清掃を行い、季節に応じた、壁画の作成等を行い、季節感を感じて頂きながら、落ち着いて生活を送れる環境を整えられるよう努めております。	共用のスペースは、大きな窓と吹き抜けの天井から太陽の光が入り明るく、掃除も行き届いている。壁には利用者と職員で作成した、季節を感じる作品を飾っている。利用者は童謡が流れて、落ち着いた雰囲気のあるホールで穏やかに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファや、又たたみの間があり、日中横になりたい方は、ゆっくり休まれるスペースを確保しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅で使っていた、布団やタンスなど持って頂ければ、持ってきて頂き、できる限り使い慣れたもので、生活を送って頂けるよう、対応し、生活の状態で変化があれば、配置等変更し快適に生活を送れるよう支援しています。	居室には、利用者が育てていた観葉植物や家族の写真、塗り絵などを持ち込んでもらっている。一人ひとりがゆったりと過ごせるように、暮らしやすさに配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	自立して生活を送れるよう、福祉用具等工夫をして、入居者さんの安全を第一に考え、朝礼時等に職員同士で話し合いを行っております。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ぼかぼかBユニット 実践状況	実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ぼかぼか開所時に掲げた理念「温もりと安らぎのあるアットホームな生活を支援します」は高齢者複合施設全体の理念にもなっており、毎朝申し送り時に、職員で唱和し共有して、支援に取り組んでおります。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	秋祭りに阿波踊り連や、海部高生等に参加して頂いたり、歌や踊りを披露して下さるボランティアの方や保育園児達、地域医療研修の医学部生の方々が訪問して下さり、入居者さんと交流を図っております。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居希望等の相談など、ご家族や、地域包括支援センターや、居宅介護支援事業からの問い合わせに、これまで培ってきた認知症状の対応、今後の支援方法等、の相談を行い住み慣れた環境で生活が維持できるよう支援しております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設行事と合わせて、行わせて頂き、概ね年6回開催し、町、社協、協力医療機関、ご家族の方々に参加して頂き、施設行事の様子や、現状等の報告を行い、参加者の方々に意見を頂き、施設運営に反映しております。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町担当の方には、推進会議や秋祭り等に参加して頂き、密に連携を図っており、町への提出物は郵送せず、直接窓口へ届け、分からないことなどあれば、相談等も行っております。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては、朝礼時に関する事項がある場合は、職員同士で話し合い、拘束なく安全に生活が送れるかを考え、環境を整えたり、色々な工夫をして、快適に生活が送れるよう支援しております。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議や、朝礼時に、日々の処遇について考える機会を設けており、年1回は研修も行き、虐待がないよう努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ぼかぼかBユニット 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在GHIには日常生活自立支援事業、成年後見人の入居者さんはおられません、以前併設するサ高住に入居者さんがおられ、司法書士の先生から指導を受けておりました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に管理者が、詳細に説明しており、介護保険、介護報酬改定時には、ご家族に文書で送付したり、直接訪問し、説明を行っております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者さん家族さんから、要望があれば、朝礼時に職員同士で話し合い、可能な事であれば出来る限り反映し、現状で難しい時は、職員、又管理者が、入居者さん、家族さんに説明を行っております。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼時に管理者、各リーダーが出席し、要望や改善点等意見がある場合は、できる限り反映できるよう心がけております。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務時間を越えるようであれば、業務を改善し、時間内で業務が終わるよう対応し、管理者は職員に現状の聞き取りを行い、働きやすい環境を整えれるよう対応しております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部での研修に、できる限り参加が行って頂き、外で学んだ事を、内部研修として発表が行って頂き、職員全体でスキルアップが行えるよう、対応し、年何回は、協力医療機関のPT等の研修も行き、多種の研修も行っております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者研修等で、他の施設の方と情報交換等を行ったり、他県、他市町村の事業所と訪問し合い意見交換、ネットワークが構築できるよう取り組んでおります。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ぼかぼかBユニット 実践状況	実践状況	実践状況
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に訪問したり、また施設に来て頂き、入居者さん、不安に思われていること、分からないことなど話を聞いて、安心して入居が行えるよう、関係づくりに取り組んでおります。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に要望等聞き、できる限り答えられるよう対応し、出来ない場合は、現状の施設の状況を説明し、入居要望にあった事業所の紹介等を行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人さん、家族さん、又ケマネを含め話し合い、現状を見極めて、現状に必要な介護サービスが提供できるよう支援しております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者さんと近い関係を、保ちながら、人生の先輩であるという意識を大切にしながら、共に生活が送れるよう、支援しております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居料の支払いは、窓口となっており、月1回は家族さんが来られ、現状の報告や、足りな物があれば、居室担当者が、電話連絡し、購入等の連絡を行い、共に支え合いながら、入居者さんの生活を支援しております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から行っている。美容室やお店などの利用が、出来る限り行えるよう支援しております。又隣接するサ高住やデイに知人等おられる方もおり、交流が図れるよう支援しております。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は本人のペースを大切にしながらも、リビングにて過ごして頂き、体操や塗り絵等、他の入居者さんと一緒に壁画作り等も行い、一緒になって作品を作成し、交流を図っております。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ぼかぼかBユニット 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された場合は、週に何回は病院へ様子を見に行き、病院、家族さんと密に連携を図り、現状把握を行い、他施設等へ移られた方に関しても、何度か訪問し、安定した生活を送られているか把握を行っております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能範囲で希望、意向が反映できるよう対応し、朝礼時に話し合い、医療面に関わってくる場合は協力医療機関看護師、Drに相談し、希望、意向が少しでも叶えられるよう支援しております。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人さん、家族さんに用紙に記入して頂いたり、聞き取り等で、情報を収集しております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態を把握し、朝礼時に変わった事があれば、職員で話し合い、自立に向けた支援が行えるよう、環境を整えたり、色々な工夫して、ADL面、向上が図れるよう支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	朝礼時にカンファレンスを行い、現状で必要な支援を職員で話し合い、家族さんの参加は難しいですが、面会時や支払い時に、意見を頂きプランに反映を行っております。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	少し変わった行動や、言動等の変化があれば記録し、朝礼時に話し合い、対応策の検討と、介護計画の変更にも活かしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者さんの意向があれば、出来る限り対応できるよう、朝礼時に話し合い、可能であれば、管理者に確認して、支援が行えるよう対応しております。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ぼかぼかBユニット 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者さんの散髪等地域の美容室に訪問して頂いております。また希望があれば、隣接するサ高住へ移動スーパーが来ており、利用も可能であります。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近くにある、医院と密に連携を図っており、月～土はDrが往診にいられており、体調不良により、入院が必要な場合は、家族さんに連絡説明を行い、Drより、紹介状を書いて頂き、スムーズに総合病院での診察が行える体制が整っております。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師が配置されており、日々の健康管理、Dr指示等がスムーズに行え、夜間の連絡体制も整えており、いつでも相談、指示を受けられる状態です。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は週に何回かは、様子を見に行き、病院の看護師さんから状態の報告もらい、施設看護師、また協力医療機関Drとの情報の共有を行い、退院時に向けての話し合いを行っております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明を行い、実際重度化した場合は、家族の意向を聞き、看取りの希望があれば、協力医療と密に連携を図り、対応についても、職員に周知し、家族さん、協力医療機関、職員で市終末期に向けた支援に取り組んでおります。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は看護師、協力医療機関Dr、管理者にすぐに連絡が取れる体制を整えており、朝礼時等に看護師からも、急変時の対応の説明も、その都度行われております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災避難訓練を行い、そのうち1回は津波避難も兼ねて行なっております。南海地震に関しては、研修を行い、職員での避難に関しての共通理解し、スムーズに非難誘導が行えるよう努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ぼかぼかBユニット 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者さんのプライバシーを損なわないよう、職員同士で話し合い、入浴時や排泄時等注意し、介助を行っています。声かけについても、気になった所があれば、朝礼時等に管理者から注意、指導し、研修も行ってあります。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思伝達が難しい場合は、うなづきや、表情等からくみ取り、入居者さんの思いを感じ、実現できるよう、密にコミュニケーションを図っており。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者さん一人ひとりのペースに合わせて、ゆっくり過ごして頂ける環境を整え、快適に生活が送れるよう支援しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人にあった、みだしなみ、おしゃれが行えるよう起床時とう、介助が必要な方は、整容、服装を整えてあります。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一括して厨房で作っておりますが、刻み、ミキサー等の調理は行い、入居者に合った食事形態で、食べやすいように提供しています。月に何回は簡単なおやつを、手作りで提供しております。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医からの健康面での指示で、制限がある方がおられ、看護師を中心に栄養面での管理を行い、変更がある場合は申し送り時に、話し合い職員間で共有し、栄養面の維持が図れるよう、支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、清潔に保てるよう支援し、問題がある場合は看護師等に相談し、協力している歯科医の訪問診察も受けられる体制を整えています。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ぼかぼかBユニット 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限り、トイレでの排泄が維持できるよう、支援しており、日中はトイレ介助を行い、自立排泄が行える環境体勢を整えています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便が3日以上出ていない人は、看護師に報告し、浣腸等を行って頂いている。なるべく水分を取って頂き、適度な運動で、スムーズに排便が行えるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一般浴での入浴可能な方が減ってきており、特浴での入浴の方は、週2回で、一般浴の方が週3回程度で入浴が行えるよう対応し、入る時間帯は午後からで、本人の入るタイミングで、入浴が行えるよう支援しております。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の状態や、体調面などをみながら、職員同士で話し合い、居室やソファなどで日中休める環境を整えられるよう支援しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師は4名配置されており、服薬等に関しては、常に指示を仰げる体制が整っており、新しい薬が処方された場合も、申し送り時に、看護師から職員へ周知を行い、確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者さんの嗜好や趣味等、入居前に記入して頂き、その情報を活かし、入居後も本人さんの意欲が引き出せるよう、趣味等を活かせる環境を整えております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ボランティアを通じての、外出支援はおこなっておりませんが、外出可能な方は、ご家族と一緒に、外出、外泊をされております。天候がいい日は前の公園へ散歩に出かけたり、ドライブを行い、外に出る機会も、作っております。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ぼかぼかBユニット 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の大半が、施設の立替払いにて対応しており、購入した際は、全てレシートで何を購入し、使用したか、家族さんへ説明が行えるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持たれている方もおられますが、ほぼ職員が家族さんと連絡を取っております。入居者さんの様子は、月1回アルバムを作成したり、ブログ等で、見れるよう努めております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適的に過ごして頂けるよう、毎日清掃を行い、季節に応じた、壁画の作成等を行い、季節感を感じて頂きながら、落ち着いて生活を送れる環境を整えられるよう努めております。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファや、又たたみの間があり、日中横になりたい方は、ゆっくり休まれるスペースを確保しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅で使っていた、布団やタンスなど持って頂ければ、持ってきて頂き、できる限り使い慣れたもので、生活を送って頂けるよう、対応し、生活の状態で変化があれば、配置等変更し快適に生活を送れるよう支援しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	自立して生活を送れるよう、福祉用具等工夫をして、入居者さんの安全を第一に考え、朝礼時等に職員同士で話し合いを行っております。		